



82_{nd}

中間報告書

2012.4.1 - 2012.9.30

〔特集〕

- ① NEW MODELS 新型フォレスター
- ② TECHNOLOGY EyeSight(ver.2)

株主のみなさまには平素よりご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、ここに第82期(2012年度)の中間報告書をお届けするにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

2012年度上期につきましては、主力である自動車事業が世界的に好調であったことやボーイング787向け製品の生産本格化などにより、売上高は過去最高の8,980億円、営業利益433億円、経常利益453億円、当期純利益404億円となり、前年同期に対して大幅な増収増益となりました。

特に自動車事業につきましては、昨年発売したインプレッサとスバル XVが共に各市場の販売に大きく貢献したことにより、全世界の連結販売台数は348千台と上期として過去最高を記録することができました。このことは、私どもが2011年度より取り組んでおります中期経営計画"Motion-V(モーションファイブ)"のブランド戦略に基づいたクルマづくりの方向性がお客様に受け入れていただけていることの表れだと考えております。

このような状況の中、中間配当につきましては、業績、経営環境等を勘案いたしまして、1株当たりの配当を当初予定の4円50銭から50銭増配の5円00銭とさせていただきます。

また、併せて、期末の配当予想につきましても、中間配当と同じく50銭増配の5円00銭といたしました。これによりまして、1株当たりの年間配当金は1円00銭増配の10円となる予定でございます。

今後につきましては、先行きが不透明な中国情勢や円高が続く為替の動向など、依然、当社を取巻く経営環境は大変厳しい状況でございます。しかしながら、このような中でも、現在取り組んでおります中期経営計画"Motion-V(モーションファイブ)"における2015年度の目標である連結販売台数85万台、営業利益1,200億円、営業利益率6%レベルを達成すべく、具体的な施策を実施してまいります。

商品面につきましては、11月に「新型フォレスター」を発売させていただきました。フォレスターはレガシィ、インプレッサと共にグローバル3車種としてスバルの販売を支えている重要なモデルであり、今回のフォレスターもスバルらしいSUVとして本物の価値を実現いたしました。これにより、SUV市場でのスバルブランドの強化を図ってまいりたいと存じます。詳細につきましては特集ページに記載しておりますのでご覧ください。

生産面につきましては、国内生産拠点である群馬製作所、米国生産拠点であるSIA(スバル オブ インディアナ オートモーティブ インク)共にフル操業が続いておりますが、インプレッサ、スバル BRZにつきましては、お客様に納車までお時間をいただいている状況でございます。

このような状況に対応し、また、更なる販売増にも対応できる生産体制とするため、群馬製作所では能力増強に着手しており、今後来年の夏まで順次、能力増強を進めてまいります。また、SIAにつきましても、2014年度には能力増強を図る計画であります。

これらの取り組みを通して、株主のみなさまのご期待に沿うべく、今後も全力で経営に当たってまいります。株主のみなさまにおかれましては、今後とも引き続きご支援ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

平成24年12月



代表取締役社長

吉永泰之

営業の概況（連結）

当第2四半期連結累計期間の売上高につきましては、自動車売上台数の増加などにより、8,980億円と前年同期比2,430億円（37.1%）の増収となりました。

利益面につきましては、売上高の増加に伴い、営業利益が433億円と前年同期比245億円（130.6%）の増益となり、経常利益につきましても、453億円と前年同期比237億円（110.0%）の増益となりました。また、当期純利益につきましては、404億円と前年同期比77億円（23.5%）の増益となりました。

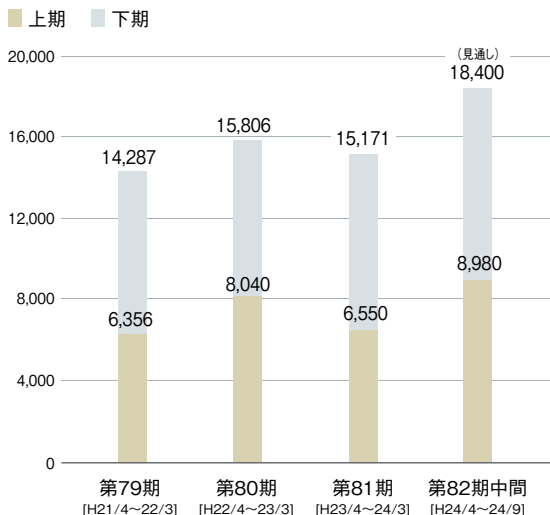
● 通 期 見 通 し

通期の連結業績につきましては、売上高1兆8,400億円、営業利益820億円、経常利益810億円、当期純利益670億円を予想しております。

連結の業績および推移

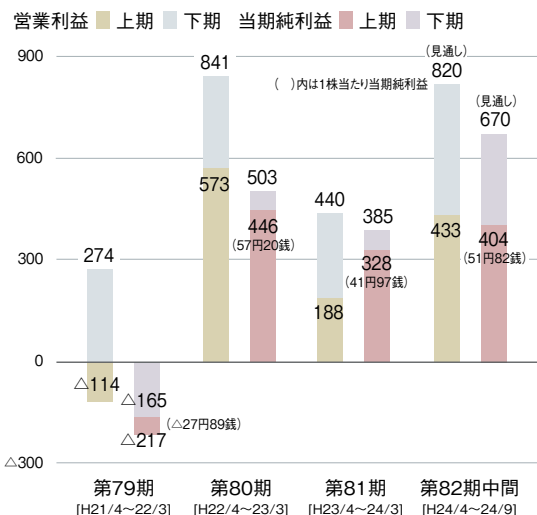
売上高の推移

（単位：億円）



利益の推移

（単位：億円）



自動車事業部門

海外の全地域で売上台数が増加し増収増益

国内におけるスバルの登録車販売は、昨年度下期の発売以来好調に推移する「インプレッサ」、「スバル BRZ」が第2四半期累計期間を通して寄与したことや、5月に直噴ターボエンジンを搭載するなどの一部改良を行った「レガシィ」が台数の上積みにより、売上台数は45千台と前年同期比10千台(26.6%)の増加となりました。

一方、軽自動車につきましては、乗用系車種が堅調に推移するものの、商用系車種による落ち込みをカバーできず、売上台数は27千台と前年同期比10千台(27.6%)の減少となりました。

これらの結果、国内における売上台数の合計は72千台と前年同期比1千台(0.8%)の減少となりました。

海外につきましては、「インプレッサ」を中心として販売が好調に推移したことに加え、震災影響から回復したことなどにより、全地域で前年同期の売上台数を上回りました。

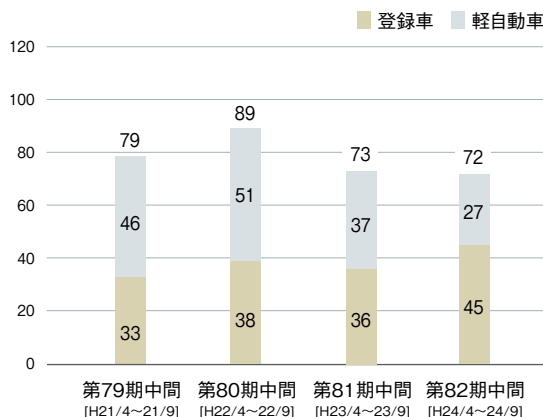
地域別の売上台数は、北米で181千台と前年同期比52千台(40.9%)の増加、ロシアを含む欧州で36千台と前年同期比16千台(81.1%)の増加、豪州で22千台と前年同期比6千台(34.6%)の増加、中国で27千台と前年同期比8千台(40.8%)の増加、その他地域で11千台と前年同期比1千台(9.9%)の増加となりました。

これらの結果、海外における売上台数の合計は276千台と前年同期比83千台(43.0%)の増加となりました。

以上の結果、国内と海外の売上台数の合計は348千台と前年同期比82千台(31.0%)の増加となり、全体の売上高は、8,304億円と前年同期比2,361億円(39.7%)の増収となりました。また、セグメント利益につきましても、397億円と前年同期比226億円(132.8%)の増益となりました。

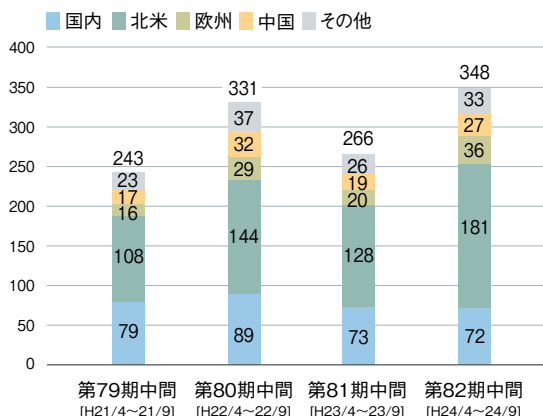
売上台数の推移(国内)

(単位:千台)



売上台数の推移(世界)

(単位:千台)



航空宇宙事業部門

ボーイング777、787の売上増加により増収増益

防衛省向け製品では、多用途ヘリコプター「UH-1J」の契約終了等により売上高は前年同期を下回りました。

一方、民間向け製品では、「ボーイング777」、「ボーイング787」の売上が増加し、売上高は前年同期を上回りました。

以上の結果、全体の売上高は417億円と前年同期比42億円(11.4%)の増収となりました。セグメント利益につきましても、19億円と前年同期比9億円(85.7%)の増益となりました。

産業機器事業部門

震災復興需要の一服により減収

震災復興需要に一服感のある国内向けエンジンや発電機の販売が減少したことなどにより、売上高は163億円と前年同期比11億円(6.2%)の減収となりました。セグメン

ト利益につきましても、売上構成の改善などにより、4億円と前年同期比1億円(56.4%)の増益となりました。

その他事業部門

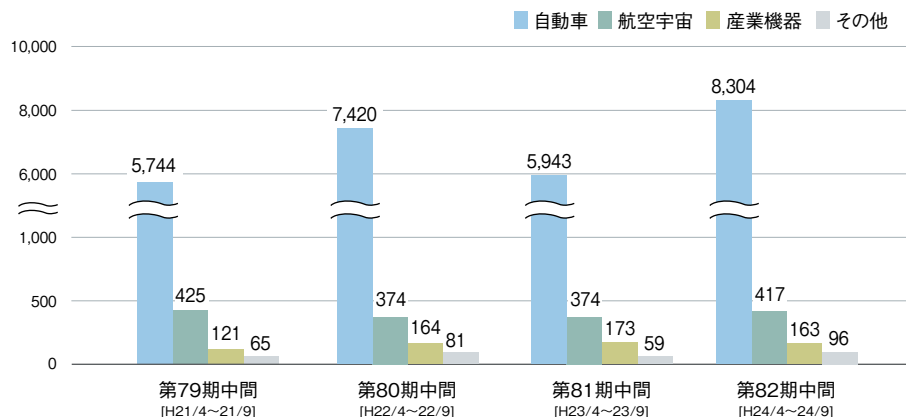
風力発電システム事業の事業譲渡などにより増収増益

風力発電システム事業を株式会社日立製作所へ事業譲渡したに加え、塵芥収集車「フジマイティ」の売上台数が前年同期に対し増加したことなどにより、売上高は96億円

と前年同期比37億円(62.6%)の増収となりました。セグメント利益につきましても、10億円と前年同期比7億円(184.3%)の増益となりました。

部門別売上高の推移

(単位:億円)



連結貸借対照表

単位:百万円

科目	当第2四半期末 平成24年9月30日現在	前期末 平成24年3月31日現在
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	196,181	237,614
受取手形及び売掛金	108,263	117,062
リース投資資産	21,305	21,865
有価証券	140,556	31,635
商品及び製品	114,097	121,686
仕掛品	55,463	56,143
原材料及び貯蔵品	33,767	33,715
繰延税金資産	19,583	17,399
短期貸付金	77,555	78,788
その他	41,943	48,019
貸倒引当金	△ 1,514	△ 1,395
流動資産合計	807,199	762,531
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	111,967	113,359
機械装置及び運搬具(純額)	100,430	99,222
土地	172,382	171,920
賃貸用車両及び器具(純額)	16,715	12,361
建設仮勘定	17,652	12,023
その他(純額)	17,166	17,206
有形固定資産合計	436,312	426,091
無形固定資産		
その他	12,511	11,818
無形固定資産合計	12,511	11,818
投資その他の資産		
投資有価証券	69,400	77,714
繰延税金資産	3,841	1,873
その他	69,436	76,089
貸倒引当金	△ 3,571	△ 3,584
投資その他の資産合計	139,106	152,092
固定資産合計	587,929	590,001
1 資産合計	1,395,128	1,352,532

単位:百万円

科目	当第2四半期末 平成24年9月30日現在	前期末 平成24年3月31日現在
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	266,414	251,043
短期借入金	74,909	71,040
1年内返済予定の長期借入金	22,619	23,786
1年内償還予定の社債	10	20,010
未払法人税等	4,810	4,600
未払費用	68,270	69,437
賞与引当金	16,595	16,478
製品保証引当金	28,747	28,861
工事損失引当金	3,374	2,841
事業譲渡損失引当金	2,962	4,177
その他	83,693	69,362
流動負債合計	572,403	561,635
固定負債		
社債	14,065	4,070
長期借入金	218,510	222,074
繰延税金負債	20,866	22,740
退職給付引当金	34,197	33,950
役員退職慰労引当金	421	469
その他	55,983	55,987
固定負債合計	344,042	339,290
2 負債合計	916,445	900,925
純資産の部		
株主資本		
資本金	153,795	153,795
資本剰余金	160,071	160,071
利益剰余金	225,465	188,538
自己株式	△ 1,261	△ 1,259
株主資本合計	538,070	501,145
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	16,713	18,966
為替換算調整勘定	△ 77,450	△ 69,809
その他の包括利益累計額合計	△ 60,737	△ 50,843
少数株主持分	1,350	1,305
3 純資産合計	478,683	451,607
負債純資産合計	1,395,128	1,352,532

[注]百万円未満四捨五入

連結損益計算書

科目	単位:百万円	
	当第2四半期累計 自 平成24年4月 1日 至 平成24年9月30日	前第2四半期累計 自 平成23年4月 1日 至 平成23年9月30日
売上高	898,020	655,023
売上原価	719,675	523,544
売上総利益	178,345	131,479
販売費及び一般管理費	135,088	112,719
営業利益	43,257	18,760
営業外収益	10,224	8,551
営業外費用	8,194	5,748
経常利益	45,287	21,563
特別利益	3,549	27,095
特別損失	2,946	8,471
税金等調整前四半期純利益	45,890	40,187
法人税等	5,404	7,394
少数株主損益調整前四半期純利益	40,486	32,793
少数株主利益	46	40
四半期純利益	40,440	32,753

[注]百万円未満四捨五入

Point ▶ ① 資産

資産は新たに海外の販売子会社を連結範囲に含めたことなどにより、426億円の増加となりました。

Point ▶ ② 負債

負債は支払手形及び買掛金が154億円増加したことなどにより、155億円の増加となりました。

Point ▶ ③ 純資産

純資産は四半期純利益の計上に伴い、利益剰余金が369億円増加したことなどにより、271億円の増加となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書

科目	単位:百万円	
	当第2四半期累計 自 平成24年4月 1日 至 平成24年9月30日	前第2四半期累計 自 平成23年4月 1日 至 平成23年9月30日
4 営業活動によるキャッシュ・フロー	110,276	△ 9,242
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 32,434	13,952
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 32,663	52,159
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 5,340	△ 5,302
現金及び現金同等物の増減額	39,839	51,567
現金及び現金同等物の期首残高	258,084	227,704
連結範囲の変更に伴う増減額	21,320	32
現金及び現金同等物の四半期末残高	319,243	279,303

[注]百万円未満四捨五入

Point ▶ ④

営業活動によるキャッシュ・フロー

好調に生産・販売が推移したことに加え、前年度は震災影響により生産が低下し、運転資金が悪化していたことによる反動もあり、1,195億円の増加となる1,103億円となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

生産設備の能力増強を行なっていることに加え、前年度は新宿スバルビルの売却益があったことから、464億円の減少となる△324億円となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

前年度は震災後に備え借入金を増やしましたが、今年度は社債の償還など、有利子負債を削減したことなどにより、848億円の減少となる△327億円となりました。

本格的SUVとして、

圧倒的な進化を実現

新型フォレスター 誕生

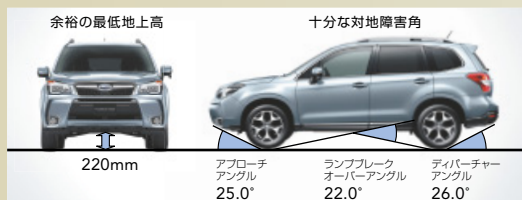
1997年の発売から15年。4代目を数える新型フォレスターが誕生しました。現在、世界的に活況を呈しているSUV市場において、スバルが新たに提案するのは「SUVとしての本物の価値」。クルマの基本性能を進化させた上で、SUVならではの“使う楽しさ”と自由な移動を可能とする“走りの楽しさ”を大幅に向上させました。新型フォレスターを通じて、SUV市場及びスバルラインアップ上でのポジショニングを明確にし、スバルブランドの強化を図ります。



新型フォレスターの主な特長

SUVパッケージング

あらゆる道を力強く、自由に走破するSUVを目指して、新型フォレスターは余裕の最低地上高かつ十分な対地障害角を確保。雪道や未舗装路などのアウトドアシーンでも余裕の走破性を発揮します。SUVとしての機能的なパッケージングが、ストレスなく移動できる“走りの楽しさ”をサポートします。



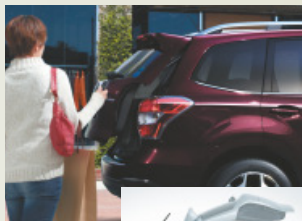
新開発の「X-MODE」



新型フォレスターの“走りの楽しさ”をメカニズムの面から具現化するのが新開発の「X-MODE」。タイヤが空転、スリップするような場面でも瞬時に制御が介入し、スムーズな脱出を可能にします。ドライバーのスキルを問わず、本格オフローダーにも負けない走破性を実現します。



使い勝手を追求したカーゴルーム



電動で開閉できるパワーリヤゲートを新採用。荷物などで手が塞がっている時でも、スイッチひとつでカーゴルームにアクセスできます。またカーゴルーム容量もさらにアップし、十分な積載性を確保。シチュエーションを選ばず、SUVとしての自由な活動を促進する“使う楽しさ”を実感できます。

3つの個性を持った スバル「新SUVラインアップ」が完成

北米で販売の中心となっているアウトバック&フォレスタース。中国でもアウトバックがプレミアムSUVとして人気を博すなど、SUVモデルは世界の主流ともいえます。今回の新型フォレスタースにより、アウトバック、スバル XVと合わせ、お客様の多彩なニーズに応える「新SUVラインアップ」が完成しました。

プレミアムテイストのクロスオーバーSUV **OUTBACK**



上質なデザインとゆとりの居住空間。愉しさと安心感を生む高いグランドツーリング性能をお客様に提供します。

カジュアルな都市型クロスオーバーSUV **SUBARU XV**



スマートで個性的なデザインと機能的なパッケージング。都市生活にマッチしたボディサイズと軽快な走りが魅力です。

フィールドを選ばないオールラウンドSUV **FORESTER**



人生をアクティブに楽しむマインドを持った方たちの頼れるパートナー。フィールドを選ばない限りない自由を提供します。

登録車販売の中心的な役割

進化し続けるEyeSight(ver.2)



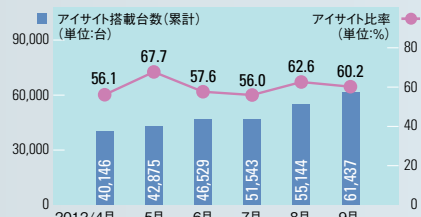
“ぶつからないクルマ?”をキャッチフレーズに、今やスバルの代表的なシステムとなったEyeSight(ver.2)。スバルが運転支援システムの開発に着手したのは、今から20年以上前のこと。以来、地道な研究を繰り返し、他社に先駆けてこのシステムを低価格で世に送り出しました。

EyeSightの名称でデビューした後、EyeSight(ver.2)への進化と共に、瞬く間に市場で大きな反響を獲得し、その性能と信頼性は今なお他社の追従を許していません。ここでは、熟成を図り続けるEyeSight(ver.2)について紹介します。

TOPICS

EyeSight搭載モデルが6万台を突破!

EyeSight(ver.2)搭載台数推移



ほとんどのスバル登録車に搭載されているEyeSight(ver.2)。2012年9月末時点で、EyeSight(ver.2)搭載モデルの販売台数は6万台を超えました。搭載率は全体の約6割にものぼり、販売の中心に。購入ユーザーからも満足の声が寄せられており、ほとんどのお客様が次回もEyeSight搭載車の購入を希望されています。

国内のみならず、海外にも積極的に展開

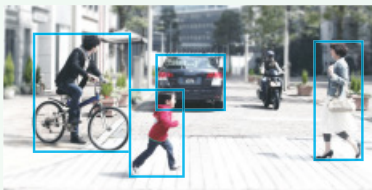


国内市場でお客様から絶大な支持を受け続けているEyeSight(ver.2)。2011年末には海外展開第一弾としてオーストラリア市場に搭載車(リパティ)を投入。2012年には北米市場でレガシィ、アウトバックの一部グレードに設定されました。好調な販売を続ける北米市場において、安全性能の高いブランドとしての地位獲得も目指します。

安全／快適なドライビングをサポートする

EyeSight(ver.2)主な4つの機能

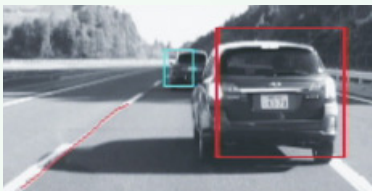
“ぶつからない技術” プリクラッシュブレーキ



ステレオカメラが常に前方を監視し、万一の場合はドライバーに注意を喚起。回避操作が行なわれない場合はブレーキ制御を行ない、自動的に減速、または停止し、日常の走行シーンでドライバーの安全運転をサポートします。

◀街中での障害物の認識イメージ

“ついていく技術” 全車速追従機能付クルーズコントロール



高速道路や自動車専用道路において、0km/h～100km/hの広い車速域で先行車に追従走行します。アクセルやブレーキ操作のわずらわしさを軽減し、より快適で安全なロングドライブを提供します。

◀追従走行イメージ

“飛び出さない技術” AT誤発進抑制制御



前方の障害物を認識し、停車または徐行状態でアクセルペダルが必要以上に踏み込まれたとシステムが判断した場合、警報音と警告表示でドライバーに注意を喚起。同時にエンジン出力を抑え、発進をゆるやかにします。

“注意してくれる技術” 警報&お知らせ機能



車線逸脱(約40km/h以上)や自車のふらつき(高速走行時・約50km/h以上)を検知した場合、また先行車の発進に気づかず停止状態のままにいる場合も、警報音と警告表示でドライバーに注意を促します。

◀警告表示イメージ

EyeSight(ver.2)

搭載モデルが続々登場

トレジア、スバル BRZを除く、スバル登録車全ラインアップにEyeSight(ver.2)搭載車が用意されています。

LEGACY



レガシ(ツーリングワゴン/B4/アウトバック)

IMPREZA



インプレッサ(SPORT/G4)

SUBARU XV



SUBARU XV

EXIGA



エクシーガ

FORESTER



フォレスター

ボーイング787型機の中央翼生産累計機数100機を達成

当社は、ボーイング民間航空機会社(米国ワシントン州シアトル、レイモンド L. コナー、ボーイング・カンパニー エグゼクティブ・バイス・プレジデント兼民間航空機部門社長兼CEO以下「ボーイング社」)向けに、ボーイング787型機ドリームライナー100号機の中央翼を8月28日に出荷しました。

当社は中央翼の設計と製造を担当し、航空宇宙カンパニー半田工場(愛知県半田市)にて製造しています。中央翼は、胴体と主翼を結合する機体構造上の要であり、また製造工程上も機体組立の起点となる非常に重要な部位です。

ボーイング787型機は、最新の中型旅客機で、軽量で強度に優れる複合材(炭素繊維素材)の多用により、大型旅客機並みの航続距離と従来の中型旅客機に比べ20%の燃費向上を実現しています。

ボーイング787型機は、2013年に月産10機への増産が予定されており、当社はボーイング787型機の派生型である胴

体延長型機(787-9)の生産開始への対応とともに今年7月、半田工場に中央翼組立ラインを増設しました。

当社はボーイング787型機その他、777型機など多くのボーイング機製造に参画しています。今後もボーイング社との良好な関係を維持し、自社の技術をさらに磨くことで、航空機産業において世界的に存在感のある確固たる地位を築くよう努めていきます。



PHOTO:787型機中央翼100号機出荷式

「ぶつからない車を目指した先進運転支援システムの開発」が平成24年度科学技術分野の文部科学大臣科学技術賞受賞

当社の技術開発者5名が、平成24年度科学技術分野の文部科学大臣表彰において「ぶつからない車を目指した先進運転支援システムの開発」で科学技術賞を受賞しました。

文部科学大臣表彰は「科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた者」を表彰するもので、当社は初めての受賞となりました。



受賞内容

1.業績名

ぶつからない車を目指した先進運転支援システムの開発

2.受賞者

当社技術開発者5名

当社は、今回の受賞を励みにこれからもスバルのブランドステートメント“Confidence in Motion”を通じて、お客様へお届けする「安心と楽しさ」を確かなモノづくりで実現していきます。

株主様工場ご視察会のご案内

今年も株主様向けの
工場ご視察会をご案内いたします。
今回は矢島工場とスバルビジターセンターに加え、
本工場に併設されておりますテストコースの
ご視察をしていただく予定です。



PHOTO: スバルビジターセンターの展示コーナー

● ご視察日時

平成25年3月20日(水・祝) 11:00～16:00予定

● ご視察場所

群馬製作所矢島工場およびスバルビジターセンター

所在地: 群馬県太田市庄屋町1-1

同本工場併設テストコース

所在地: 群馬県太田市スバル町1



PHOTO: 矢島工場内の製造ライン



PHOTO: 群馬製作所 矢島工場

● ご集合場所

東武伊勢崎線太田駅

(浅草から特急りょうもう号で約1時間20分)

①当日は、東武伊勢崎線太田駅より送迎バスをご用意いたします。

②お車でお越しの株主様は、矢島工場に直接おいでください。

③当日のご集合場所までの交通費は、株主様のご負担とさせていただきますのでご了承ください。

● ご視察人数

50組100名様程度とさせていただきます。

(株主ご本人様とご同伴者様1名)

①ご希望者多数の場合は抽選とさせていただきますのでご了承ください。

②当選落選に関しましては株主ご本人様に直接ご連絡し、当選の株主様には当日の詳細をご案内いたします。

ご注意: ご視察コースは階段等を含め、約1時間の歩行となります。

お問い合わせ先

富士重工業株式会社 総務部「株主様工場ご視察会」係

TEL 03-3347-2012

ご応募 方法

下記の当社ホームページ
またはハガキでご応募ください。

http://www.fhi.co.jp/ir/share_info/tour_application.html

締め切り

ホームページ: 平成25年1月7日24時まで

ハガキ: 平成25年1月7日当日消印有効

郵便はがき

1 6 0 - 8 3 1 6

「株主様工場ご視察会」係
富士重工業株式会社 総務部
東京都新宿区西新宿1-7-2

株主様

- ① 郵便番号
- ② ご住所
- ③ お名前
- ④ 年齢
- ⑤ 交通手段(電車・車・その他)
- ⑥ 電話番号
- ⑦ 携帯番号
- ⑧ ご同伴者様とのご関係

ご同伴者様

- ① ご住所
- ② お名前
- ③ 年齢

● 個人情報の取扱いについて

今回ご応募いただきました株主様およびご同伴者様の個人情報は本ご視察会の実施以外の目的では一切使用いたしません。

配当に関する事項

平成24年10月30日開催の取締役会において、当社定款第47条に基づき、平成24年9月30日の最終の株主名簿に記載された株主または登録株式質権者に対し、以下のとおり中間配当の実施を決定しました。

1. 中間配当金 1株につき 5円
2. 支払請求権の効力発生日および支払開始日 平成24年12月4日

株式事項 (平成24年9月30日現在)

● 株式の総数

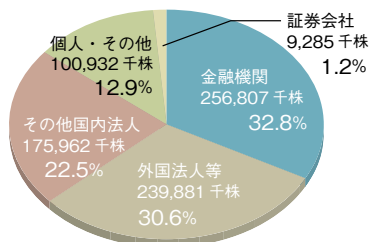
発行可能株式総数 1,500,000,000株
発行済株式の総数 782,865,873株

[注] 当期中の増加 0株

● 株主数

41,793名

● 株主の分布状況



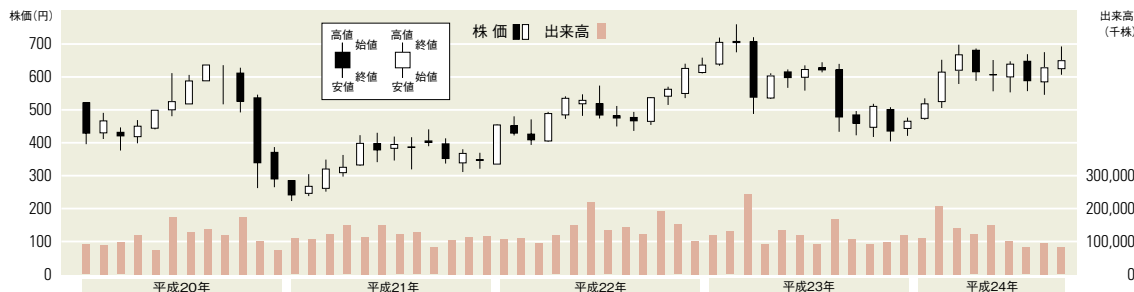
[注1]「個人・その他」には、当社所有の自己株式2,009千株が含まれております。

[注2]「その他国内法人」には、株式会社証券保管振替機構名義の株式11千株が含まれております。

● 大株主

株主名	株式数(千株)	比率(%)
トヨタ自動車株式会社	129,000	16.48
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	45,292	5.79
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	33,151	4.23
全国共済農業協同組合連合会	14,194	1.81
スズキ株式会社	13,690	1.75
富士重工業取引先持株会	13,235	1.69
株式会社みずほコーポレート銀行	12,361	1.58
株式会社みずほ銀行	12,017	1.54
株式会社損害保険ジャパン	11,716	1.50
日本生命保険相互会社	11,191	1.43

● 株価の推移



社 名 富士重工業株式会社
 英 文 社 名 Fuji Heavy Industries Ltd.
 創 立 1953年(昭和28年)7月15日
 資 本 金 153,795百万円
 従 業 員 数 12,800名(連結会社合計27,810名)
 主 要 製 品 普通・小型自動車、航空機、汎用エンジン、環境車両
 本 社 〒160-8316 東京都新宿区西新宿一丁目7番2号
 代 表 電 話 03-3347-2111

[注] 資本金および従業員数は、平成24年度9月30日現在の数値であります。

役員 (平成24年9月30日現在)

代表取締役社長	吉永 泰之	執行役員	上野 康男
代表取締役副社長	近藤 潤	執行役員	務川 達彦
取締役専務執行役員	馬淵 晃	執行役員	小坂井 康雄
取締役専務執行役員	武藤 直人	執行役員	中井 毅
取締役専務執行役員	池田 智彦	執行役員	野飼 康伸
取締役専務執行役員	高橋 充	執行役員	高橋 正士
☆ 取締役	有馬 利男	執行役員	飯田 政巳
専務執行役員	灰本 周三	執行役員	中村 知美
専務執行役員	高田 充	執行役員	増田 年男
専務執行役員	永野 尚	執行役員	細谷 和男
常務執行役員	鴨川 珠樹	執行役員	大河原 正喜
常務執行役員	日月 丈志	執行役員	前田 聡
常務執行役員	笠井 雅博	常勤監査役	高木 俊輔
常務執行役員	小林 英俊	常勤監査役	及川 博之
常務執行役員	平川 良夫	☆ 常勤監査役	今井 伸茂
		☆ 監査役	山本 高穂

[注] ☆印は会社法に定める社外取締役および社外監査役であります。

株式手続きのご案内

事業年度 毎年4月1日～翌年3月31日
配当基準日 期末配当:3月31日、中間配当:9月30日
定時株主総会 6月中
単元株式数 1,000株
株主名簿管理人及び
特別口座管理機関 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
公告方法 電子公告
(ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告
を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載して行
ないます)

株式に関する各種お手続き(届出住所等の変更届、配当金振込指定書、単元未満株式
に関する買取請求書及び買増請求書等)に関するお問い合わせ、書類のご請求の窓
口につきましては、以下のとおりです。

証券会社に口座をお持ちの場合

お取引の証券会社になります。

なお、未払配当金の支払、支払明細発行については、下記のお取扱店・電話お問い
合わせ先・郵送物送付先をご利用ください。

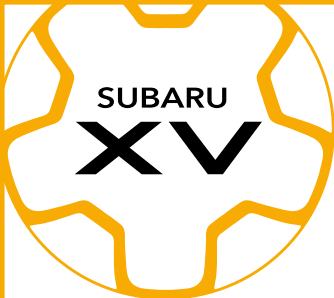
証券会社に口座をお持ちでない場合(特別口座)

お取扱店 みずほ信託銀行株式会社 全国各支店
みずほインベスタース証券株式会社本店および全国各支店*
電話お問い合わせ 0120-288-324(フリーダイヤル)
先郵便物送付先 〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4

なお、未払い配当金のお支払につきましては、みずほ銀行本店および全国各支店
でもお取り扱いいたします。

* [注] みずほインベスタース証券株式会社は、平成25年1月4日以降はみずほ証券
株式会社となります。

表紙PHOTO: フォレスター 2.0XT EyeSight (オプション装着車)



SUBARU
XV

スバル新SUVラインアップの一角
を担うスバル XV。これまでにない
楽しさを全面に押し出した都市型ク
ロスオーバーSUVとして、デビュー
しました。発表後約1ヶ月で目標の4
倍を超える4,000台を超える受注
台数を獲得するなど、好評を博して
います。



富士重工業株式会社

〒160-8316 東京都新宿区西新宿一丁目7番2号

電話 03-3347-2111

[ホームページ:株主・投資家の皆様へ] <http://www.fhi.co.jp/ir/index.html>

